

文書館だより

第20号

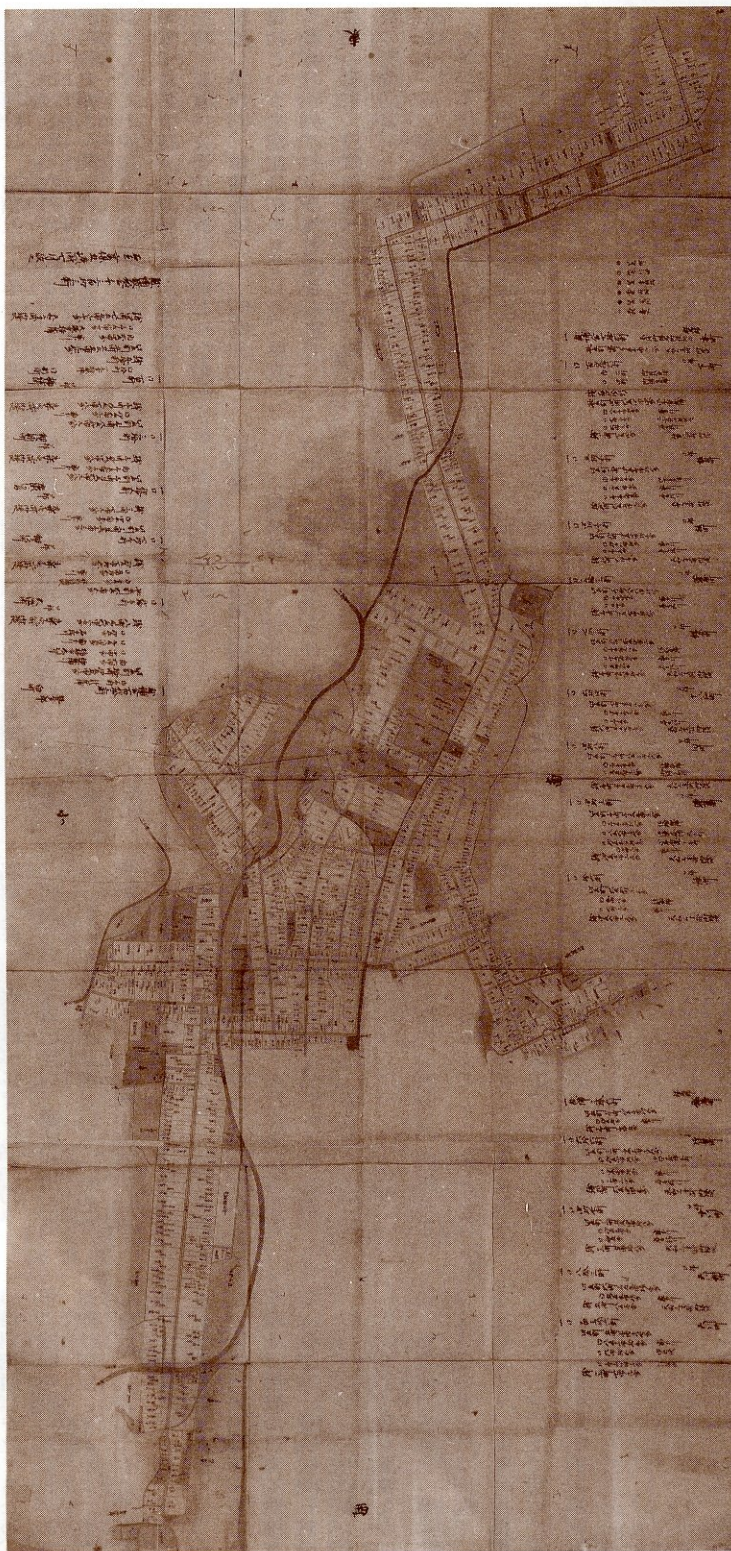
平成5年1月

発行／群馬県立文書館
〒330 前橋市文京町三丁目三番五号
印刷／朝日印刷工業株式会社
B(017) 21-1348
B(017) 51-1333

題字 岡庭征人書

＝紙面案内＝

- ―特集「文書館の十年」―
- 文書館の十年
- 十年のあゆみと今後の課題
- 閲覧可能資料一覧



前橋屋敷図（前橋町絵図） 享保五（一七二〇）年七月 彩色図
縦一一七cm・横二四五cm 兵庫県姫路市熊谷次郎氏所蔵（平成四年一〇月撮影）

酒井家家臣の熊谷家に伝存する酒井家藩主時代の前橋町絵図です。絵図には前橋町内の道路・河川・寺社地などが色別に描かれています。また、町内の屋敷割が書き込まれており、各屋敷地には地主名などが記入されています。ただし、武家地については描かれていません。絵図中の詞書には、本町以下二ヶ町の町別屋敷数や反別（面積）などが記載されており、享保五年の前橋町の総屋敷数は一、三三三軒であったことがわかります。この絵図の複製図は平成五年二月二一日まで文書館の展示室で御覧になれます。（鈴木一哉）

一、文書館の十年

当館の開設は、昭和五十七年です。そのきっかけとなったのは、始まっていた群馬県史編さん関係者からの要望でした。県としてこれを取り入れることとなり、昭和五十四年度から準備に入りました。

当時、県立の文書館施設は全国で一〇館程度しかなく、単独組織でかつ新築独立建物という文書館は初めてでした。県立図書館のなかにあった県史編さん室で、建物の建築、設置手続きの進行、行政文書の廃棄文書からの収集と移管予定文書の製本、古文書の収集、藩資料のマイクロ化等の準備業務が行われました。建物竣工後、図書館から移転し五十七年十一月一日に開館の運びとなりました。開館後の推移は次のようです。

昭和57年度 開館 知事からの文書管理
委任について協議 史料協全国大
会開催 行政文書約二万五千冊・
古文書約一〇万点収蔵 古文書目
録刊行開始

58年度 各講座開始 文書館日より、紀
要(双文)創刊 行政文書簿冊目
録刊行開始

59年度 行政文書大量受任(約一万六千
冊) 全史料協関東部会月例研究

会開催(以後毎年一回継続)

60年度 議会図書室行政資料・文書大量
受入(約一万五千冊) 群馬県報
複製本作成開始

61年度 長期計画画検討 行政文書件名目
録刊行開始

62年度 (公文書館法公布) 浩宮殿下
御来館

63年度 地籍図マイクロ化開始 文書館
設置条例改正

平成元年度 作業用プレハブ棟設置 古
文書二〇万点収蔵

2年度 上毛新聞マイクロ化(明治末
昭和戦前期)

3年度 蚕糸業資料マイクロ収集開始
公文書記録保存専門講座開始(郷
土史研究講座廃止)

収蔵文書は、開館前後に相当数受入れられました。行政文書は、学事文書課管理の文書が、県史編さん室で供用されていたものをはじめとして管理委任され、古文書は県史編さんの調査の過程で寄託・寄贈を働きかけたものです。その後行政文書の受入に大きな影響をもったのは情報公開の開始です。文書館収蔵文書は開示対象外とされて、文書館機能と整

合性を持つこととなりましたが、この時各課の文書減量化が推進されたため、文書が大量移管され、さらに従来文書館的な役割を一部果たしてきた議会図書室の収蔵文書・行政資料が移管されました。

収蔵文書の充実に伴い、閲覧利用も進み、市町村史の利用急増という一時的な要因はありますが、少人数の職員では対応が間に合わないほどとなりました。

収蔵文書の急速な増加は、一方で整理作業が追いつかず、未整理文書が堆積するという事態を招き、また書庫が満杯となる事態に達しました。従来県史編さん室の使用に任せてきた一部書庫の活用を図らなければならなくなっています。

普及活動の本格的な展開は、開館翌年の昭和五十八年度からでした。展示は開館年の記念展示に引き続き、通常の展示も加え、翌年から二本建てとし、企画展と常設展という名称で継続実施されています。常設展といっても固定の展示ではなく、展示期間が長いというにすぎません。こういう設定にしたためもあり、展示物は可能なものは複製品を用いるように方針を変更しています。

普及事業の推移のなかで特筆すべきものは、後述するように専門講座の開始でしょう。文書館の本来機能に即した事業として育てていく必要があります。

この十年の間、当館も加盟している全

国歴史資料保存利用機関連絡協議会の活動も拡大し、さらに公文書館法が制定されるなどして、文書館に対する重要性の認識が高まってきました。当館でも活動の長期見通しを立てるため、昭和六十一年に検討を行ったことがあり、また公文書館法制定にあわせて、設置条例を改正し、同時に諸規程の見直し、整備をはかったところです。一方、市町村でも徐々に文書保存に対する関心が広がってきました。市町村史の編さん方法も長足の進歩をみせ、当館に対する期待も大きくなっていることが感じられます。

しかしこういう中であって課題は山積しています。最も重要な点は、文書の収集、整理能力の強化、機動化です。これは文書館の基本的な問題で、活動すべてを左右します。閲覧利用提供も普及活用も、この土台の上で初めて成り立つものです。目前の現実的な課題としては、書庫の増設があります。最終的な保存スペースを確保しなければならぬと同時に、行政文書の収集、保存を効率よく行うための「中間書庫」も将来設置していかなくてはなりません。過去の記録遺産を現代に生かすとともに、次代への永続を使命とする文書館にとって、この十年はまさに草創期だったといつてよいでしょう。

二、十年のあゆみと今後の課題

① 行政文書の収集と整理・保存

収集(広義 以下「受入」)には、教育委員会事務局からの引継、知事部局及び公安委員会を除く各種行政委員会からの管理委任、公立学校共済組合支部及び日本赤十字社支部からの管理委託、議会図書室収集文書資料等の移管、県の各機関が廃棄を決定した文書から図書館が歴史資料となり得ると判断したものの収集(狭義)があります。

十年間の受入数は、引継が四、〇五六冊、管理委任が三、七三六冊、管理委託が二、二九九冊、議会図書室移管が二、〇九八冊、廃棄文書の収集が一、三八八冊で、総計七五、九四七冊です。

引継、管理委任等は、原則として完結後十年を経過した永年保存文書を対象とし、その他も特例的に受入れています。

受入の働きかけは、文書担当課が行う文書整理の実施要領に、一項を加えてもらうなど極力積極的に行っています。しかし、主体はあくまで各室課であり、文書館が具体的に文書を定めて要望するなどはしていません。したがって、十数課からは未だ受入れていません。平均すると年間三〇室課ほどで、全体の三分の一程度に止まっています。

一方、廃棄文書からの収集はほぼ全室

課にわたっています。しかし、やはり廃棄の主体は各室課で、廃棄作業の結果廃棄文書が決定します。しかも、収集作業

は文書整理の日程により、短時間に行わねばなりません。一度消滅した文書は再生できません。館員の選別能力アップとともに、歴史的価値の判断は後世に期待するところが多いため、時間をかけ慎重に選別が行える制度(中間的文書保管庫設置等)の整備確立が大きな課題です。

いずれにしても、受入をスムーズに行うためには、関係各機関との信頼協働関係の強化が一層重要と思われます。

整理は、受入登録と保存利用の二段階に大分しています。保存利用は、文書に対する処置(補修・製本)と、検索手段の整備に細分しています。さらに、検索手段の整備は、簿冊目録から件名目録の作成へと段階的に進めています。

利用は、補修・製本と簿冊カードの整備が終了し次第始めています。しかし、補修・製本作業に手間がかかり、現在、収蔵文書の約四〇%しか利用できません。また、酸性紙やジャゾ感光文書の保存処置及び製本についても、様々な問題が指摘されています。完結三十年後からの閲覧利用をめざし、より安全確実な補修・製本方法等の開発は緊急課題です。

一方、収蔵文書の増加にとまない、検索の正確さや速度が問題になっています。コンピュータを導入した検索システムの構築も大きな課題です。(小暮隆志)

② 古文書の収集と整理・保存

古文書や記録類は、所蔵する民間の個人や団体等から、主に寄託または寄贈という方法で収集してきました。平成三年度末現在の収蔵文書は、総数一六九件(点数約二二万点)におよび、その内訳は寄託一三〇件(点数約二〇万点)、寄贈三九件(点数約一万点)であり、寄託文書が大部分を占めています。

これらを所蔵者別にみれば、個人(一三五件)、団体(二八件)、公的な諸機関(六件)の三つに大別できます。このうち、約八割を占める個人所蔵文書は、先祖伝来の文書と個人の収集文書に分けられ、近世村方の名主文書や近代の戸長役場文書が主体です。次に団体文書は、市町村の区や自治会等が所有する文書と民間の歴史団体等が所有する文書に分かれ、とくに自治会等からの寄託文書が多いことも大きな特徴です。第三の公的機関が所蔵する文書とは、市町村役場・公民館・図書館・学校等が収集した文書で、件数は少ないものの数量的にまとまった文書群が含まれます。

寄託・寄贈文書は搬入後、燻蒸―基本カード作成―台帳目録作成―受入れ契約

―ラベル貼付―収納―排架―点検など、一連の作業過程を経たのち閲覧に供します。現在一―二件の文書が利用できますが、点数では全体の三割くらいにすぎません。これは当面の大きな課題です。

寄託・寄贈文書は基本の台帳目録のほか、文書の検索や利用の便を図るため毎年一冊づつ分類目録を作成しています。すでに一〇冊刊行し、倉品家(沼田市)、天田家(高崎市)、伊能家(吾妻町)、清水家(藤岡市)をはじめ、多野・藤岡地区、勢多・前橋地区、利根・沼田地区の二七件の文書が収録されています。

このほか、原物による収集が困難で、かつ貴重な文書についてはマイクロフィルムで収集し、複製本を作成して利用に供しています。昭和五十六年度から一〇か年事業で実施した江戸時代の上野諸藩関係文書の収集は大きな成果で、平成三年度からは新たに五か年計画で、本県のかつての基幹産業であった蚕糸業関係文書のマイクロ化を進めています。

今後の課題として、まず現在収蔵している文書の整理及び目録作成を一層促進し、一日も早く閲覧利用に供することがあげられます。そのためのコンピュータの活用は最も有効な方法といえます。また、群馬県史編さん事業が終了した現在、県史が従来行ってきた古文書の所在調査を文書館が発展的に継承すると共に、地

域に伝存する古文書の保存意識を高め、その利用体制を確立することも大きな課題となるでしょう。(岡田昭二)

③ 閲覧と利用

開館以来の閲覧利用は、大勢として増加傾向をたどってきたといつてよいでしょう。閲覧者数は年によって増減がありながら全体として徐々に増加してきましたが、閲覧点数と複写件数については、平成元年から三年度にかけて急増しました。これは市町村史編さんの利用のため、とくに行政文書の閲覧が多く、かつ悉皆的にマイクロ撮影や電子複写が行われたため、複写件数が極端に増えました。

閲覧者の増加により、もともと十分な広さがなかった閲覧室は、閲覧者を収容しきれない事態が生じてきました。

その他の閲覧者層としては、もともと県内に大学は多くなく、その関係の利用者も多いとはいえませんでした。最近では県外の学生や研究者も目につくようになりまし。一般の利用者は一時特定の人の利用が集中した昭和六十年ころに多かったものが、最近再び増加しています。これは古文書解説学習の利用も含まれますが、土地調査その他多様な利用が広がっているためとみられます。

レファレンス業務は、専門的機関として重要な業務となっています。ただ対応には文書資料や歴史的事項に関する知

識・情報が求められ、調査手段の整備と職員の資質向上に努めてきました。今後その努力を続ける必要があります。古文書解説相談は、要望により昭和六十二年度から相談日を決めて応じてきました。(田中康雄)

④ 教育・普及活動

教育普及活動の一つに各種講座があります。

「入門」と「長期」の二つの古文書解説講座は開館直後の昭和五十八年度から始まりまし。初心者向けである古文書解説入門講座は五十九年度からは県民文化大学施設講座の一つに組み入れられています。定員枠を七〇名(昭和六十二年までは一〇〇名)に設定していますが、毎回定員を上回る希望者があり、抽選で受講者を決定している盛況ぶりです。開設以来の受講者は総計で一二六一名に達しています。これは、全国的な古文書解説のブームを背景としているとらえられますが、文書館にとつては古文書に対する関心や史料保存の気運の高まりにつながっていくことが期待されます。

もう一つの中上級者向けの長期古文書解説講座は約半年にわたる講座ですが、長期間にもかかわらず受講者には熱心な人が多く、全体の三分の二以上の出席をもって修了者とする修了率は毎回九〇パーセント近くにのぼっています。こち

らの方も受講者総数は六二〇名に達しています。平成元年度から「読解と利用」の三講義には、古文書学習団体の会員や市町村史編さん関係者にも聴講を呼びかけています。古文書講座の受講修了者有志によって結成された古文書学習団体である「蛎魚の会」と「同好会」は現在でも文書館を会場にして活発な活動を行っています。また、県内には七〇ほどの古文書学習団体がありますが(平成元年度調査)、これらのなかでも本講座の受講修了者が活躍しています。邑楽・館林など遠方の方の参加をどう保障していくかが今後の課題といえます。

公文書・記録保存専門講座は平成三年度から始められたものです。県内市町村の文書事務、文化財、史誌編さんの各担当者を対象に、公文書や史料の保存利用に関する知識・技術の普及をはかることを目的としています。昭和五十八年度以来平成二年度までは、県内外の研究者に群馬県の歴史の中から主要なテーマを選んで講演してもらおう「郷土史研究講座」が設けられてきましたが、この種の講座は関係社会教育機関も数多く行っていることもあって休止とし、公文書館法の制定によって公文書等の保存が重要な課題となってきた情勢をふまえて、この公文書・記録保存専門講座を新設したものです。昨年度の第一回の講座には二日間そ

れぞれ四五名の参加者がありました。

教育普及のもう一つの柱である展示は多くの方に文書を実際に見てもらおうことよつてその大切さを知ってもらうことに意味があります。展示は当館所蔵文書の紹介を行う常設展(年二〜三回)と、主要なテーマを設け館外資料を含めさまざまな角度から展示を行う企画展(年一回)の二つにわけられます。企画展ではテーマに精通した著名な講師による講演会を併せて開催しています。これまでに全部で一一回開催されてきた企画展のなかで、好評だったのは「甞る地籍図」(昭和六十二年度)と「上野国の国絵図」(平成三年度)等でした。

第三に、刊行物として「文書館だより」(年二回)、研究紀要の「双文」(年一回)、それと史料整理の成果ともいえる「目録」の三つを出しています。「文書館だより」は当館の活動状況や収蔵文書の情報などをお知らせする広報紙です。県内の小中高校や図書館・公民館などに配布されているほか、文書館にも置いて、希望者にはお貸ししています。「目録」は文書の閲覧利用には必要不可欠なもので、「文書館収蔵文書目録」(古文書)(二〜一〇)、「行政文書簿冊目録」(二〜五)、「行政文書件名目録」(二〜五)の全二〇冊がこれまでに刊行されました。(宮崎俊弥)

三、閲覧可能資料一覽

行政文書課

行政文書課関係で閲覧できる資料は、次のとおりです。
明治期文書(二、七八八冊、三、五六三分冊)

明治期の群馬県庁文書。郡・市町村や公共組合の行政経済、組織、吏員等に関する地方関係、学校設立伺・沿革誌等の学務関係、神社・寺院明細帳、社寺境内外地等の宗教関係が多い。勸業関係では水利組合、肥料等のほか、明治四十三年の連合共進会関係の文書群がある。

検索手段 群馬県行政文書簿冊目録第1集、群馬県行政文書件名目録第1〜5集(地方I、II、学務I、II、宗教I)簿冊カード、件名カード

大正期文書(一、一四四冊、二、〇四二分冊)

大正期の群馬県庁文書。地方、学務、勸業関係が多い。地方では郡制廃止関係、学務では県下初の県立公園つづけ岡公園関係がある。大正九年に行われた第一回国勢調査や関東大震災の救援に関する文書もある。

検索手段 群馬県行政文書簿冊目録第2集、簿冊カード
昭和戦前期文書(一、八〇三冊、三、〇六三分冊)

昭和戦前期の群馬県庁文書。学務、勸業、宗教、地方関係が多い。学務では、青年学校や県下一斉の古墳調査の関係、勸業では耕地整理や小作、商業組合関係、宗教では寺院・教会規則、寺院・教会台帳などがある。ほかに県庁舎新築や群馬会館落成関係、警防関係文書もある。

昭和九年の特別大演習の関係文書もまとまっている。
検索手段 群馬県行政文書簿冊目録第3集、簿冊カード
議会図書室収集文書(三、九二八冊、五、一四一分冊)

県議会図書室が設置以来収集した、明治・大正・昭和戦前期の文書と同一群をなす文書。耕地事業、経済更生事業、産業組合設立等の勸業関係と議案、決議録、会議

録等の議会関係が際立つ。明治初期の戸長役場関係の文書も多い。ほかに明治中期の教科書や統計書、群馬県歴史、郡村誌、養蚕新論、養蚕須知等も含まれる。

検索手段 群馬県行政文書簿冊目録第5集、簿冊カード
官報(一、八六二冊、二、五八七分冊)

明治十六年七月〜昭和五十五年十二月の官報と官報資料及び官報号外(帝国議会・国会の会議録)がある。

検索手段 カード
群馬県布達全書(二三冊)

明治六年〜十七年に群馬県庁(九年までは熊谷県)から出された布達を年度ごとにまとめて編さんしたものである。なお、議会図書室収集文書中には全冊そろっている。

検索手段 群馬県布達全書目録、カード

群馬県統計書(三八冊)、群馬県勢要覧(二一冊)

群馬県統計書は、明治二十五年〜昭和二十七年のもので、内訳は明治二、大正二、昭和二四冊。なお、議会図書室収集文書中には明治十三年〜昭和二十五年のほぼ全冊そろっている。

群馬県勢要覧は、県勢のあらましを統計資料により紹介したもので、昭和二十七年、三十一年〜四十年がある。なお、行政資料中には昭和五十二年〜六十年がある。

検索手段 カード

刊本類等(一、六八四冊)

日本書紀、康熙字典、憲法類編、興業意見等の刊本のほか、明治中期の教科書や多胡・山ノ上碑等の拓本、明治十七年群馬県管内上野国全図等の地図類などもある。

検索手段 カード
絵図等(一、七六一枚)

明治五年地券発行のために作成された壬申地券地引絵図一、二九二枚や明治三年の検見耕地絵図六四枚のほか、村限絵図、郡図、旧藩廳絵図、耕地整理地図等がある。これらの絵図のうち、四五三枚はマイクロフィルムによる複製化が済み、複製物で閲覧する。

検索手段 群馬県行政文書簿冊目録第4集、カード

群馬県報複製本(一二八冊、二九四分冊)

明治十九年〜昭和三年の群馬県報の複製本。県令、訓令甲、訓令乙、庁達、告示、通牒照会、彙報、褒賞などの種別に編冊してある。

検索手段 県報(副本)目録、群馬県報件名目録
新聞等(一、九八四冊)

県議会図書室旧蔵の戦後発行された新聞。全国紙(朝日、毎日、読売、東京、産経)は、昭和二十四、五年〜五十七年八月が月ごとに編冊。ほかに上州新聞、東毛タイムス、西毛新聞、高崎市民新聞等の県内発行紙もある。

検索手段 カード
郷土資料(九、〇三三冊)

県議会図書室での保存期限が経過し除籍された郷土資料の移管を受けたもの。県図書館協会編集「群馬県郷土資料総合目録」にも収載されている。

検索手段 文書館収集郷土資料目録、書名カード
行政資料(一、三三六冊、三、七三三原冊)

県の各機関が業務の推進や報告のために作成した印刷物が中心。ほかに、国・都道府県・市町村・公共団体等のもので群馬県と関係するものを含む。

検索手段 行政資料目録

写真・アルバム等(二、三三五点、三、一一七枚)

県議会図書室が「群馬県議会史」や「群馬県政史」及び各種広報誌に掲載するために収集したもので、歴代県知事や県内の主要事件に関する写真、県の事業の広報写真、県幹部職員の写真などがあつた。

検索手段 元県議会図書室所蔵写真目録

上毛新聞マイクロフィルム(一一二二リール)

県議会図書室旧蔵の上毛新聞を前橋市立図書館のフィルムで補って作成。明治四十三年九月二十五日〜昭和十七年六月三十日が閲覧できる(一部欠号)。
検索手段 上毛新聞マイクロフィルム目録 (田中尚)

古文書課

平成四年一二月現在までに閲覧可能な家別古文書（マイクロフィルム収集文書を含む）の概要です。未整理・整理中の文書は含まれていません。配列は文書館年報の地域区分により、原則として文書資料に関連する現在の市町村ごとにまとめました。分類は村方文書・町方文書・武家文書・その他の四つの項目を設けましたが、一応の目安に過ぎません。また、点数は枝番号等がありますのでおおよその概数です。

中部〈前橋市・勢多郡〉

***村方文書** 〈前橋市〉近世・近代の村政関係では、元総社村西組の都木家文書六三八点、元総社村の伊藤家文書五一八点、野馬塚村の久保家文書一六〇点、小神明村の小神明町自治会文書六九九点、西大室村の根岸家文書五、四二七点、上細井村の上細井町自治会文書二六二点、新堀村の新堀町自治会文書一二三点、天川原村の文京町二丁目自治会文書二五三点、龍蔵寺村の龍蔵寺町自治会文書六一一点、龍門村の北原氏収集文書一一点、嶺村の青木家文書二、八三三点、川原島新田の川原町自治会文書一〇七点、川原島新田の近世絵図を含む佐藤家文書一一〇点、近世天川町及び村絵図を含む天川史跡保存会文書五五五点、西荻窪村字限絵図一点の吉沢家文書。〈大胡町〉近世・近代の村政関係では、上大屋村の上大屋区有文書四〇〇点、茂木村の茂木第二区有文書一七六六。〈赤城村〉近世・近代の村政関係では、猫村の永井家文書二五五点、津久田村他の山田氏収集文書四〇〇点。〈富士見村〉近世・近代の村政関係では、石井村の典籍類も多い中島家文書三一二点、横室村の萩原家文書三五四点、原之郷村の原之郷区有文書七七〇点。

***町方文書** 〈前橋市〉前橋町年寄を勤め文政前橋町絵

図を含む近世・近代の勝山家文書二五四点。（マイクログ）前橋藩御用商人で製糸業も営んだ藤井家文書二八五五点。

***武家文書** 〈前橋藩〉高野氏収集文書は酒井家作製の元禄上野国絵図一点。松平家臣関係では、前橋城絵図を含む豊田家文書二九点、渡辺家近代文書を伝える井田家文書六〇点、杉原家の宛行状等六六からなる大沢氏収集文書。鹿沼家文書五一点、川木家文書五〇点、家臣分限帳を含む龍八家文書四二点。（マイクログ）姫路城管理事務所所蔵の酒井家文書約一三〇点。前橋市立図書館所蔵の酒井家史料約一四〇点。前橋市立図書館所蔵の松平家記録二七三冊分。同家臣関係では、渥美家文書一五四点、岩倉家文書一三二点、寒河江家文書二、五六二点。

***その他** 〈前橋市〉製糸業をリードした速水堅曹関係八二点の速水家文書。民権活動家齋藤壬生雄関係一八二点の齋藤家文書。医学関係の典籍類が多い上原家文書二、七二二点。写本・典籍・絵図類を多く含む東善養寺村の萩原家文書七三三五点。日光御参詣記録一点の小暮家文書。明治前期教科書類を中心とする桜井家文書七九点、同じく永田氏収集文書一二三点。前代田村の地券等一八五五点の中嶋家文書。明治期総社神社鳥居再建関係五五五点の小沢氏収集文書。昭和期の朝日・読売新聞他の片貝家文書六六六点。師範学校附属小学校修業證書を含む杉田家文書四二点。明治四三年貿易品博覧会褒賞証を含む岡家文書二二点。日露戦争終了に関する勅語一点の矢部家文書。大正期刊行の荒砥村郷土資料を含む前橋市立荒子小学校文書三三三三点。群馬社関係資料三九点。（マイクログ）農商務省原蚕種製造所前橋支所の建設関係資料の蚕業試験場資料一〇〇点。〈新里村〉消息往来等典籍類五五五点の田中家文書。昭和三〇年代の毎日・読売新聞を含む吉田家文書四四四点。〈黒保根村〉実業家・政治家として著名な星野耕作履歴を含む橋川家文書一一点。〈富士見村〉明治期の赤城産馬会社関係書類を含む金子家文書五五五点。

西部〈高崎市・安中市・群馬郡・碓氷郡〉

***村方文書** 〈高崎市〉近世・近代の村政関係では、下滝村の名主で江戸長屋経営文書を含む天田家文書四、四六〇点、根小屋村の根小屋町（第一区有）自治会文書九七一点。〈松井田町〉土塩村で関所関係を含む山田家文書四四四点。〈群馬町〉中泉新田村の近世・近代村政関係では、横山家文書五三二点。

***町方文書** 〈高崎市〉鎌倉町絵図一点の湯浅家文書。
***武家文書** 〈高崎藩〉安藤家臣の漆原家文書二二六六点。（マイクログ）彦根市立図書館所蔵の井伊家関係資料二二二点。彦根城博物館所蔵の井伊家文書一五五五点。鯖江市資料館所蔵の間部家文書八冊分。同家臣の植田家文書五五五点。高崎市立図書館所蔵の大河内松平家文書四四四点。同家臣では、堤家文書八一点、川合家文書一八六六点。

***その他** 〈高崎市〉日露戦争時の軍事郵便八七七点の京ヶ島公民館文書。（マイクログ）安藤家記録を含む大信寺文書九二二点。〈榛名町〉明治期学校・神道関係を含む門倉家文書七〇〇点。

北部〈渋川市・北群馬郡〉

***村方文書** 〈渋川市〉金井村の近世・近代村政関係では勝田家文書一一〇点。〈榛東村〉金古村の近世村政関係では岡部家文書一〇八八点。

東部〈太田市・桐生市・新田郡・山田郡〉

***村方文書** 〈太田市〉強戸村の近世・近代村政関係では岡部家文書五〇〇点。
***その他** 〈太田市〉明治期柔術関係文書を含む山根家文書五五五点。〈桐生市〉明治大正期の教科書・雑誌類を中心とした佐鳥家文書三五五一点。〈大間々町〉明治三三年大日本国会衆議院議員一覽表を含む深澤家文書二二二点。

多野〈藤岡市・多野郡〉

県内古文書研究団体の紹介

高山村古文書を読む会

高山村の「古文書を読む会」は、昭和五十九年の秋頃にはじまったのではなかったかと思う。新田旧本陣の平形作右衛門・長期講習終了の松井正八を中心に飯塚万造・阿部嘉市郎・飯塚与志次・林かね子・平形美弥子等が加わり、総勢十名ほどではじまった。これが平成二年文化協会の新発足にもなっており、その傘下に入り文化協会古文書部として再出発し、役員には部長に飯塚万造、副部長に阿部嘉市郎（二人は文化協会の理事をかねる）そして書記会計に飯塚与志次がなった。会費は年千円、それに文化協会より補助金が出て、毎月のコピー代、年一回の見学旅行をまかなっている。例会は毎月第三土曜だったが、役場の土曜閉庁にもない第三金曜を使うことが多くなってきた。会場は新装なった「いぶき会館」の図書閲覧室を利用して頂いている。会員は前記の者のほかに後に参加した、鈴木秀知・野上寛治・後藤三郎・稲川昭三・笠原利勝・後藤文枝・後藤節子・河原田正一等で運営されている。解説する古文書は、はじめは新田旧本陣家の一紙物を中心に研究していたが、現在は飯塚万造家のものを解説している。

今年解説したものは「尻高村当已蔵

酉年迄定免年貢割付」（宝暦十一年）「当已御年貢皆済差引目録」（天保四年）それから「御公儀様御触書写帳」（文政七年）の三部である。これから三月迄の予定としては、「組合村々取締方其外議定連印書付・巻」（文政十年）を解説することとなっている。この中で「御公儀様御触書写帳」には、当時の上野国の群馬郡（高山村は中山・尻高とも群馬郡）の全部の村、二



〇六カ村の村名が出ています。現在の前橋・高崎・群馬郡・北群馬郡・吾妻郡の各一部分ずつが出ていて、地図に描いたら現在の群馬県の中央部を南から北に貫いたような、面白い格好になると思われる。これは日光御社参に不都合なことのないよう、関八州の村名・村高・地頭姓名を調べたものの一節である。とにかく古文書を読んでいると、いろいろな意外なことがわかって面白い。

（松井正八）

告知板

◎新たに収蔵された古文書

平成四年三月以降、当館へ新たに寄託された古文書は次のとおりです。

- *群馬町東国分・住谷修家文書
- *群馬郡東国分村耕地絵図、年貢割付・皆済、明治初年の戸長役場関係文書のほか、古事記伝、大般若経などの写本。
- *前橋市住吉町・藤井新兵衛家文書
- 幕末期、前橋藩の御用達商人として活躍した藤井家の経営関係帳簿をはじめ、明治期の金融・鉄道関係の事業報告書、前橋市政関係の往復書翰など、多数。
- *新治村吹路・笛木作夫家文書
- 幕末期の吾妻郡吹路村名主文書で、高反別名寄帳・小前帳、宗門御改帳など。
- *新治村相俣・竹内俊鳳氏収集文書
- 上野国拾四郡高附帳、吾妻郡猿ヶ京村の三国街道関係文書、幕末から明治初年の永井・吹路村の戸口・年貢関係など。
- また清水てつ家（藤岡市）、久保原一家（前橋市）、前橋市天川史跡保存会から追加寄託、上岡高行家（伊勢崎市）からは追加寄贈を受けました。
- ほかに長野県の上田市立図書館（花月文庫・藤廬文庫）と上田市立博物館（佐藤善右衛門家・佐藤嘉三郎家）に収蔵されている蚕糸業関係文書等のマイクロ収集を実施し、現在整理を進めています。



あゆみ

蛎魚の会・古文書同好会継続

- 4・7・8 行政文書一括くん蒸（9）
- 7・10 文書館文書調査員会議開催
- 7・23 文書館運営協議会開催
- 8・7 博物館学実習（21）
- 8・9 第1回長期古文書解説講座
田畑勉（群馬高専教授）
- 9・6 第2回常設展終了
- 9・27 第7回長期古文書解説講座
井上定幸（群馬県史編さん委員）（11回）
- 10・21 企画展「群馬の鉄道」開始
（11・22）
- 10・23 中国国家档案局李向罡氏来館
- 11・7 企画展記念講演「群馬県における鉄道網の形成」
原田勝正（和光大学教授）
- 11・11 全史料協全国大会（愛知）
参加（12）
- 11・22 第12・13回長期古文書解説講座
講座飯倉晴武（宮内庁書陵部陵墓調査官）
- 11・29 第14・15回長期古文書解説講座
講座原島陽一（文化女子大
学教授）